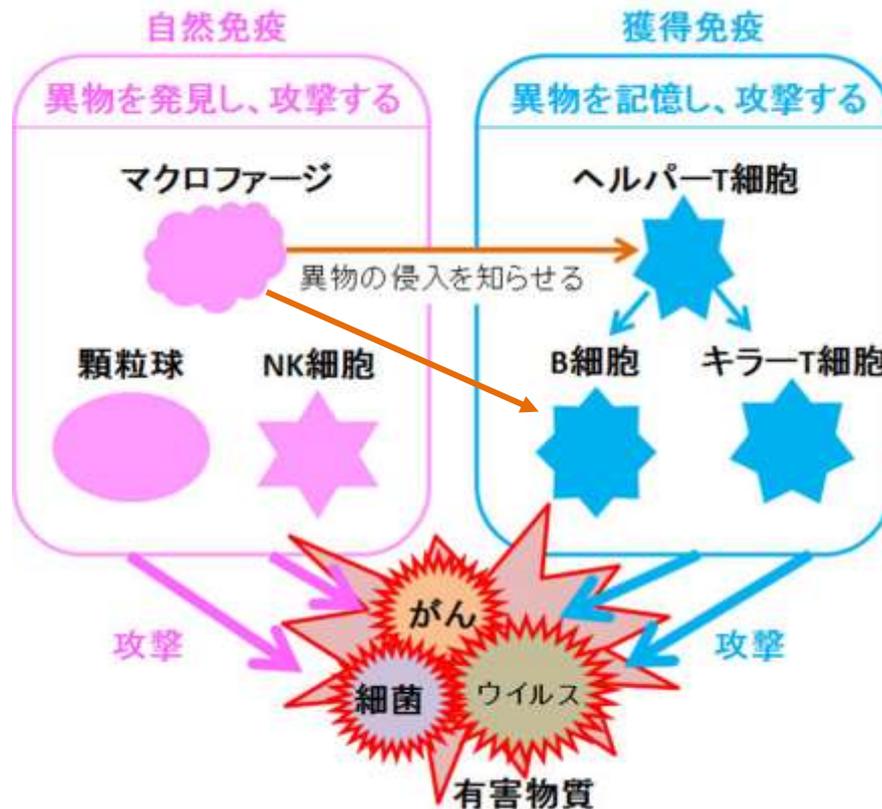


## リンパ球分画検査 項目解説



**自然免疫**；街をパトロールするお巡りさん（それぞれが別個に攻撃）  
**獲得免疫**；攻撃対象別の軍事チーム（組織的に連携して攻撃）

### I. 獲得免疫 CD3+CD8+；キラーT細胞（CTL）

目安値 10%以上

体外から侵入してきた病原体や体内にある異常細胞（細菌やウイルス、ガン細胞、移植細胞など）についての情報を抗原提示細胞（樹状細胞、マクロファージ）から受け取り、それを排除する方向に働くリンパ球の一種で、CTL（細胞障害性T細胞）とも呼ばれています。その殺傷能力は強力で、標的となる病原体や細胞の特徴（抗原情報）を認識して、特異的・選択的に攻撃する獲得免疫系の主力細胞です。

### II. 自然免疫 CD3-CD56+；ナチュラルキラー細胞（NK細胞）

10～20%以上

特異的・選択的に作用するキラーT細胞と違い、病原体に感染した細胞やガン化した細胞などの異常細胞を見つけると、その細胞自体を攻撃して排除する守備範囲の広い自然免疫系の主力細胞です。

### Ⅲ. 制御免疫 CD4+CD25+; 制御性 T 細胞(Treg)

15%以下

過剰な免疫反応を制御する抑制系細胞の一種で、Tレグ(regulatory T cell ; Treg))と呼称されます。免疫活性が強すぎると、リウマチなどの自己免疫疾患やアトピーなどのアレルギー疾患が誘発されたり悪化したりすることから、その働きにブレーキをかけ免疫の暴走を抑えます。

### Ⅳ. キラーT細胞/制御性T細胞(CTL/Treg) バランスタイプ判定

キラーT細胞(CTL)と制御性T細胞(Treg)の数のバランスにより免疫機能の安定度を評価します

I型CTL優位型

II型CTL優位型且つ免疫制御均衡型

III型免疫制御優位型且つCTL均衡型

IV型免疫抑制優位型

※自己免疫疾患やアレルギー疾患などに罹患している場合のI型は、免疫過剰型と判定されますので要注意です。

#### 参考項目、フルセット追加項目

##### CD3+CD56+ ; NK T細胞

自然免疫系のNK細胞と獲得免疫系のT細胞の両者の特性を有する細胞です。

##### CD8+CD56+ ; CD8陽性のNK細胞

サイトカイン等の刺激などで細胞障害活性が高くなっているNK細胞です。

##### ナイーブT細胞 (CD3+CD45RA+CD45RO-)

病原体やがん細胞などの異物(抗原)に出会ったことのないT細胞の一種です。この細胞の数が多いほど免疫応答が効率よく行われます。加齢とともに減少する傾向があります。

##### メモリーT細胞 (CD3+CD45RA-CD45RO+)

T細胞は役割を果たした後に寿命を迎えますが、その一部は異物(抗原)に対する細胞障害活性を持ったままリンパ節の中などで生き続けます。そのため長期間にわたり獲得免疫が維持されます。様々な感染予防ワクチンはこの仕組みを利用しています。加齢とともに増加する傾向があります。

##### 活性化T細胞 (CD3+HLA-DR+T細胞)

病原体などの抗原物質に一度出会ったT細胞で、活性化T細胞と言われます。この細胞の比率上昇は体内での免疫が活性化している(=病原菌との闘争中である)状況を示唆します。